



記事；新年の挨拶（野間会長）

学習会及び忘年会（昨12月）

音楽の不思議な力 遠藤三郎賞（くろつち会も大きな役割）



新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様におかれましては、ご家族ともども良き新年をお迎えのことと拝察いたします。

くろつち会は昨年4月の鹿屋市議選「真島幸則」さんの2期目当選を勝ち取り11月の「作品展」の開催など会員の皆様のご協力をいただき、何とか当初の計画を実行することができました。本当にありがとうございました。

さて、12月14日に実施された第47回衆議院議員選挙は475議席中326議席を自民・公明の与党が獲得するに至りました。この結果を受け、第3次安倍内閣が誕生し、私たちが危惧する諸問題に対して信任を得たとし、またもや「改憲草案」まで発表し、改憲を目指しています。閣議決定された「集団的自衛権」行使に向けた自衛隊法の改正や、特定秘密保護法の施行など、国民が求める「平和と安心」が根底から崩されようとしています。

また、国民生活を見ると労働法制の改悪による非正規雇用の増大や低賃金にあえいでいる国民は多く「働く意欲」まで奪っています。また一方では貧困による「負の連鎖」が国民生活を縛り、悪循環から逃れられず貧困に陥り、学校にいけない子供たちも多数出てきていますし、生活保護さえ満足に受けられない人たち

くろつち会会長 野間 典文

もいます。また、私たち年金生活者を見れば2043年まで続くマクロ経済スライドにより毎年1%ずつ年金が切り下げられ、老後の暮らしも決して安心できません。こういう状況下では格差は格差を生み、生存さえ脅かされ、差別社会を作っていくかねません。その他、原発再稼働の問題など、私たち国民が欲している要求とは全く正反対の政治姿勢を自公政権は貫いています。

私たちは現状を絶対肯定することなく、また今回の選挙結果に腐らず、あらゆる機会をとらえて安倍の政策に対して反対の声を上げ続ける、この姿勢を貫こうではありませんか。何よりも安心で安全、そして差別のない社会が一番暮らしやすいのではないのでしょうか。

今年の4月には県議会選挙も控えています。薩摩川内市区の遠嶋春日見さん鹿児島市区の柳誠子さんがそれぞれ2期目3期目を目指して立候補されます。私たちもこの二人を落とすわけにはいきません。いろいろな手立てを講じて二人の当選を目指していきたいと思えます。子供や孫はもちろん、未来の子供たちにどんな社会を引き継いでいけるのか、私たちが問われているような気がします。

健康に気を付け、目標を持って、この一年を過ごしたいと思えます。

遠藤三郎賞

くろつち会とも密接なつながりのある「反戦反核おおすみ市民の会」の代表を長年努めてこられた上山陸三さんが、昨年「遠藤三郎賞」を受賞されたことが新聞にも掲載されていました。その受賞パーティーには多くのくろつち会員もかけつけました。（11月29日）



恒例の「くろつち会学習会」が、11月30日、千成本店で実施されました。内容を脇田昭穂さんにまとめていただきました。

また減った ^お俺が年金と ^{びんたんけ}髪 ^毛 脇田 昭穂

唱(オチ)：^{どつち}両方も^す少
ね なっしもた

老後の心配・年金問題

講師 丸野武人 県年金者組合委員長

○団塊よ死ぬ前に闘え

こんなにきな臭く貧しくなっていく世の中をそのままにして、あの世に逝ってよいのか。子孫に手渡す前に、足る年金で豊かな社会にして「お迎えを待つ」のが正しい生き方
(五十嵐仁・前法政大学教授)

○憲法25条

すべての国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する(生存権)
国は、すべての部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない

○実質賃金15ヶ月連続減

アベノミクスによって物価が押し上げられているため実質賃金の低下が止まらない。日銀・黒田東彦総裁は、物価目標達成のため「できることは何でもやる」と強調している。これ以上の物価上昇は、国民をさらに苦しめることにしかない。

○2013年末採決強行 社会保障プログラム法

社会保障制度改革の基本法「自助・共助・及び公助」が消え、憲法25条に基づく社会保障という考え方を完全に放棄し、国民を無理やり「自助」に追い込む内容。

「消費税の増税分を社会保障に」の看板そのものを投げ捨てた。「消費税は社会保障のため」という言い分を完全に葬り「消費税を増税し、さらに社会保障も削減する」との狙いが鮮明になった。

○「マクロ経済スライド」とは

2004年に決まったが、これまで一度も発動されていない。(デフレで物価が下がって発動できなかった。)

少子高齢化が進むと「年金受給者が増える」「年金を支える世代が少なくなる」
→調整率を設けて、受益者負担でまかなう仕組み(政府はお金を出さないとすむ仕組み)

自動的に、年1%~1.3%、年金を引き下げる仕組み。厚労省の試算では、2043年まで続けることになる。



左：丸野武人さん

右：会場の様子

講演前、某会員が演題を見て「老後・・・というけど、くろつち会はみんなもう年寄りじゃないの」と言っていたけど、「団塊よ死ぬ前に・・・」は「逝った後の心配もしないといけない」(某会員の話)ということ呼びかけています。



くろつち会忘年会

学習会後の忘年会。

会場全景(パノラマ)



暗い話の多かった2014年でしたが、新年に展望を託すべく、50名ほどの会員が集うことができました。



かんぱ〜い



日教組組合歌

団結して、ガンバロウ！→

今後の予定

脱原発全国集会 IN 鹿児島(天文館)
1月25日(日) 13時~16時
脱原発集会 鹿屋イベント広場
2月6日(金) 17時30分~
労金友の会グラウンドゴルフ大会
3月17日(火) 雨天の場合翌日

肝属支部関連

肝属母と女性教職員の会

1月31日(土)

肝属退職者を送る集い

2月28日(土)

(くろつち会会員の発掘の場)

音楽の不思議な力

No.65 酔いどれフォスター 2

前号より、アメリカの南北戦争前から活躍していたフォスターを取り上げていきます。

フォスターの 25 歳位の 1851 年に作曲された歌に「故郷の人々」があります。

♪ 遙かなるスワニー川 そのしも
懐かしの彼方よ わがふるさと
旅空のあこがれ 果てなく
思い出ずふるさと ちちははいます
長きとしつき 旅にあれば
♪ おお 疲れし我が胸 父母をしたうよ

スワニー川はフロリダ半島の付け根に位置し、メキシコ湾へ流れ込む長さ 400 km 余りの緩やかな流れの川です。この歌詞は、1949 年（昭和 24 年）の小学校 5 年生用に掲載されていますが、この歌が我が国に初めて登場した 1888 年（明治 21 年）の「明治唱歌」には、「あわれの少女」という曲名で出ています。

♪ 吹き捲く風は 顔を裂き
見るみる雪は 地に満ちぬ
あわれ 素足のおとめ子よ
♪ 別れし母を 呼ぼうらん

「素足のおとめ子」は「マッチ売りの少女」を連想させます。

この二つの訳詞は、同じ詞を訳したものととは思えないくらいの開きを感じます。

ここにフォスターの書いた詞を、ほぼ

日高南海雄

直訳したものがあります。比べてみましょう。

♪ スワニー川をくだった はるか
はるか向こう そこには私の心が
ずっと求め続けている場所があり
そこには懐かしい仲間たちが
暮らしている 今はあてどもなく
あちこちを悲しく私はさまようが
それでもなお あのなつかしい
プランテーションをそして故郷の
なつかしい仲間たちを思い出す

世界中を悲しく疲れきって
どこへでも 私はさまよう
おお なんとわたしの
心は重く沈むのか
♪ 故郷の人と遠く離れてしまつて

プランテーションはアメリカ南部の農業地帯です。ここではアフリカから強制的に連行された黒人たちが、奴隷として働かされました。この曲は、過酷な奴隷生活から逃れてきた人々の魂を歌った曲です。フォスターはおどけた歌詞で黒人をからかっていた当時の音楽から、黒人たちの哀しみを歌う音楽を取り上げていきました。なお、「故郷の人々」では、ドボルザークの「ドレドレ ミソラソ ドシレド シレドラ～」とスキップのリズムで歌われる「ユーモレスク」と一緒に歌ったのを思い出しました。ちなみに「故郷の人々」はフロリダ州の州歌になっています。

今教育の現場は

現職組・退職組の会（三木会）で鹿教組の原園委員長が政治の動向や教育現場の話がされました。
教育に関わっては次のような内容でした
○ 新教育委員会制度（4 月から実施）
○ 教科書検定一どの教科書会社もナショナリズムを煽る内容へ
○ 道徳の教科化一事実上の国定教科書、評価の問題、専任教員問題
○ 学級定員問題（35 → 40 人に）と教員賃金とのリンク一今回は撥ね除けられた厳しくなる一方の現場。今後の動向を、私達も見守っていかなければなりません。

おまが行く



1/16「三木会」で